研究

全国的に拡がる ヤマビルの吸血被害

（一財）環境文化創造研究所　ヤマビル研究会　　谷 重和

1．はじめに

山に山林作業やハイキング、キャンプ、渓流釣りなどに出かける人々の間でヤマビルに吸血される被害が全国的に増えており、更に最近では、里山近くの居住地周辺にまでヤマビルがみられるようになって、日々の生活圏の中でも吸血されることが多くなっています。2016 年 3 月現在、ヤマビルが生息し、吸血被害の見られる地域は、北は秋田から南は沖縄の 34 都府県にまで拡大しています（図 1）。

なお、九州地方では宮崎が最も多く、次いで鹿児島にもやや多く見られていますが、熊本、大分、福岡では一部にしか見られず、佐賀と長崎ではヤマビルの生息・吸血被害は確認されていません（図 2.）。

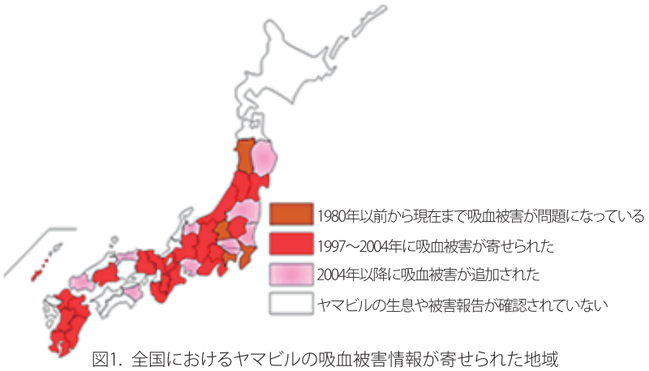

図1. 全国におけるヤマビルの吸血被害情報が寄せられた地域

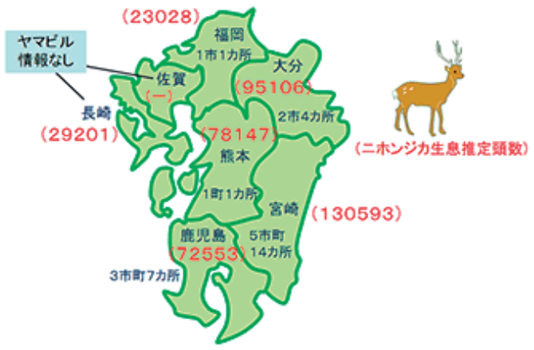

図２．九州地方におけるヤマビル吸血被害地域とニホンジカ生息推定頭数　（2012. 環境省）

2．ヤマビルはどんな生き物か

ヤマビルはミミズと同じ環形動物に属し、体長は 3 ～ 4 ㎝、伸びると 5 ～ 7 ㎝にもなり、引っ張ってもちぎれないほど強靭な筋肉を持っています。体は赤褐色から茶褐色で、背中に 3 本の黒い線が縦に走っているのが見られます。陸生で、特に山地の杉林などに多く生息しており、強い吸血能力を持った生き物です。6 月～ 7 月の梅雨の時期や 9 月～ 10 月の雨の降った時に知らないうちに吸血されます（写真 1.）

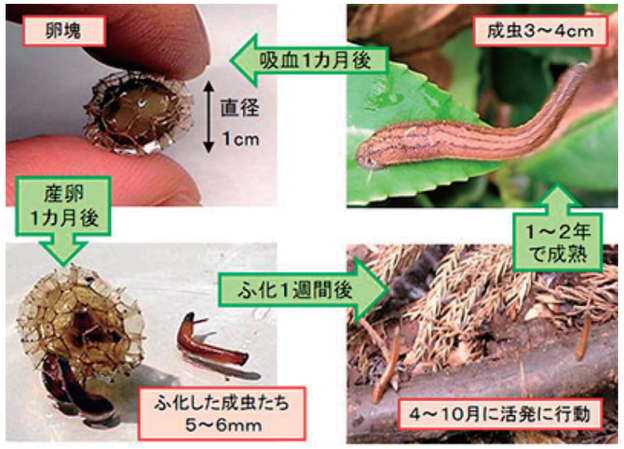

写真１．ヤマビルの産卵と成長

体の前端（前吸盤）と後端（後吸盤）に吸盤があり、後吸盤で体を支えながら尺取虫の様に歩きます。なお、ヤマビルは雌雄同体ですが、他の個体との相互交接もよく観察されます。

ヤマビルは乾燥には弱く、暗くて湿気の多い場所を好み、枯葉の裏や草の多いところ、枯れ木、石の下でじっとしていますが、動物が近づいてくると動物の体温・呼気に含まれる炭酸ガスや彼らの近づいてくる振動などを検知して、足などに付着して吸血します。吸血するときには前吸盤の中にある顎歯（がくし）と呼ばれる小さい歯で、動物の皮膚を切り裂き吸血します。たっぷりと吸血したヤマビルは動物から離れて、地面に落ち、動かないで 1 か月程度過ごし、卵塊を産みます。卵塊の中には 5 ～ 10 個の卵が入っています。その卵塊はさらに 1 か月後には中から仔ビルが生まれてきます。そして仔ビルは 10 ～ 12 日で吸血できるようになり、吸血する毎に脱皮を繰り返して大きくなっていきます。寿命は 3 ～ 4 年と言われています（写真 2.）

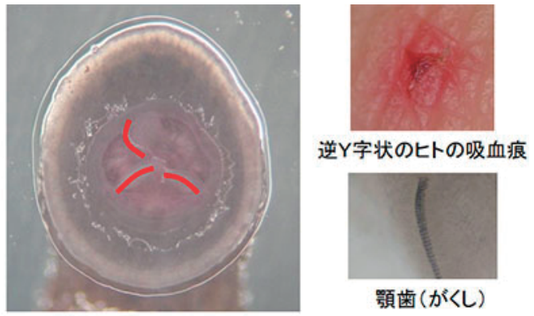

写真２．前吸盤の3つの顎(アゴ)とヒトの吸血痕

3．森林の荒廃と大型ほ乳動物の増加

最近、冬の降雪期間が短くなり、積雪量も少なくなって冬季のニホンジカ、イノシシなどの死亡率に低下が見られたり、長期間の狩猟禁止による野生動物保護、狩猟者の減少・高齢化などの影響により大型ほ乳動物は急激に増加し生息範囲を拡げています。その結果、農作物への被害も多くなって、2011 年（平成 23 年）のニホンジカの農作物への被害は 83 億円にもなり（環境省）、木の樹皮がかじられて樹木が枯れてしまったり、下草が食べ尽くされて、雨が降ると土壌が流失したりする現象が全国で生じています。また、尾瀬国立公園ではミズバショウや高山植物が食い荒らされ、生態系への影響が危惧されています。また、2012 年（平成 24 年）度の野生鳥獣による森林被害面積は約 9000 ヘクタールに達し、樹皮剥ぎと枝葉の食害が深刻となっています（林野庁）。

一方、2006 年（平成 18 年）のイノシシとニホンジカの捕獲数を見ると（環境省）、1980 年（昭和 55 年）からの 26 年間にイノシシは 2 倍以上、ニホンジカではほぼ 10 倍に急増しています。環境省は全国のニホンジカの個体数を推計し、2011 年（平成 23 年）度では 261 万頭が生息しているとしています。

4．ヤマビルはなぜ全国的に増えたのか

第一に、ヤマビルは最近急増しているニホンジカとイノシシを主な吸血源としてどんどん増えたこと（実際にヤマビルが吸血した動物を PCR-SSCP 法による DNA 解析で調べるとカモシカ、ニホンジカ、イノシシ、ノウサギなどであった）。加うるに山間地域の過疎化が進み、里山や人家周辺にまで現れるようになり、これら動物に半寄生の状態でヤマビルが移動・拡散していったことが挙げられます。第二に、奥山・里山の荒廃化が進み、耕作放棄地も拡大し、草刈り、落葉掻きなどの環境整備がおろそかになり、ヤマビルが定着・繁殖しやすい暗い、じめじめした環境に変わってしまったことも原因の一つです（写真 3.）

写真３．ニホンジカの足部（第3･4趾間に付着したヤマビルと吸血痕）

5．ヤマビルに吸血されないためには

山に入るときにはサンダルや運動靴は避けて、前もって忌避剤を塗布した長めの長靴や登山靴を準備したり、ズボンのすそを靴下（厚手・長めの方が良い）の中に入れ、足首を露出させないようにすることが大切です。また、ヤマビルが多く生息している場所では 1 時間に 1 回ぐらいお互いに背中・首筋などにヤマビルが付着していないかどうかや靴下の中に潜り込んでいないかを確認してください。特に、9 ～ 10 月にはふ化後数週間の 5 ～ 6㎜ の細くて小さいヤマビルが増える時期（ヒルとは気がつかない）なので十分に気を付ける必要があります。

6．ヤマビルに吸血された場合には

体に付着・吸血しているヤマビルを見つけた時は、塩をかけるか、親指の爪先で吸盤をはがし、ヒルを取り除きます。ただ、マダニに吸血された時にはマダニの一部（口下片）が折れて体部に残る場合がありますが、ヤマビルではそのようなことはないので引っ張って取り除いても問題はありません。

吸血された時は、数時間 血が止まらないので、傷口からヒルジン（血液を凝固させなくする分泌物）をしぼり出した後、傷口を消毒用エタノールや水で洗い（治りが早い）、抗ヒスタミン剤の軟膏を塗ってかゆみを抑え、必ず絆創膏で血が流れ出るのを止めることが重要です。